ＩＸ。質問書全回答

１．ＪＩＣＡ在外事務所・支所からの回答

１．横浜国際センター（以下、横セ）の考え（別紙「ＪＩＣＡの日本語教育協力を通じた中南米日系社会との連携の在り方に係る一考察」）について

ブラジル事務所ベレーン支所

・日系社会支援事業を過去の事業と考える傾向があるが、斬新な切り口から効果的な実施の可能性は高い。「日系社会支援は本邦社会に還元される」横セの認識に賛同。関係部署の連携を図ること。

・文化と言語の関係は密接だが、日本語学習の動機は社会、文化の魅力に限らない。各々に対して別々のアプローチ検討も意義がある。

・「外国語としての日本語教育」という横セの認識に同意。日本語は日系社会でスペイン語、英語に次ぐ「第３言語」

ボリビア事務所サンタクルス支所

・考察にあるとおり、中南米の日系社会は、移住先国から高い信頼を得ており、ボリビアでも同様である。入植開始から５０年近くの間、経済的苦境に置かれた時も、日本人としての習慣や美徳、地域社会を形成する手法等を遵守したことによる。

・日系社会に対する高い評価の根底に、「正直さ」、「勤勉さ」がある。その精神は次世代へと受け継がれているが、それには日本語教育が大きな役割を果たしており、考察には異論ない。

・非日系社会は、日系社会の農協経営に大きな関心を寄せている。ボ国に日系農協が２つ存在し、日系社会の経済発展のみならず、農業分野の地域開発、技術向上に大きな貢献をして高い評価を得ていて、日本的農協理念に基づく独特の経営方法に注目が集まっている。

・個人の利益が追求されがちなラテン社会で、相互扶助の精神は育ちにくい。しかし、日系農協は創立を数十年経た今も、理念を損なわない努力を続けている。経営会議で日本語の使用を義務づける農協があり、日本語を失うと理念も失う危機感があるようだ。

・伯国コチア産業組合の崩壊の要因の一つとして、関係者の中に、経営会議を日本語から現地語に変えた頃に放慢経営が始まったと考える人いる。ある日系農協幹部はこれを教訓にしている。また、ある日系２世は、「『もったいない』は現地語に訳すのが難しい」、「催しの招待状が日本語だと時間厳守を心がけるが、現地語だと気が緩む」と言う。このことからも、日本語教育は単なる言語教育でなく、日本的な価値観を含む道徳教育にもなっている。

・日本語教育は、「国語教育」、「継承語としての教育」のみならず、今後主流となる「外国語としての日本語教育」においても、前述の教育効果を意識した取り組みを期待する。

・対象は日系、非日系を問わず、学習意欲を阻害しない、魅力ある日本語教育を実践しないといけない。３事業のあり方の検討にあたって、学習目標および意義の明確化、学習意欲の向上等、実施効果が十分生じるように配慮願いたい。

２．日系社会･団体の状況を踏まえた日系社会支援事業のあり方

ブラジル事務所ベレーン支所
・従来の日系団体助成の方法は、団体が必ずしも日系社会の統括機能を果たしてない現状に合わない。現地社会で積極的な活動を展開する日系人（たとえば日系研究者協会や草の根協力事業に則る日系人中心非営利事業）への支援が望ましい。

・日本語や日本文化普及の支援は、直接被益者を日系人に限らず、広く非日系社会を含めて行なうことが、日系社会のプレゼンスを高め、ひいては日系人の地位向上につながる。日本語学校生徒研修に非日系人が参加できるよう望む。

ボリビア事務所サンタクルス支所
・ＪＩＣＡは、移住事業の枠組みの中で、移住者１世から子弟を対象に様々な支援事業を一元的に展開してきた。当初の事業目的（移住者１世の定着・安定）をほぼ達成したことや、日系社会の担い手が１世から２世への交代が進んだこと等に対応すべく支援方法を見直して、１世を対象とした移住事業と、２世、３世の人材育成面を主とする日系社会支援事業に整理された。その利点は、事業計画の策定から実施、評価まで、同じ部署内で全て行えたことである。

・本件で問われる連携は、事業部署の枠組みを超え、支援対象である日系社会の状況および問題点を共有して、いかに効率的な事業を展開するかであろう。

・事業の実施方法は、移住事業の手法に加え、技術協力事業で培われた手法も組み入れる等、実施効果の観点から検討すべき。日系社会支援事業は、日系社会の自助努力を引き出しつつ、その活性化を促すことが当面の目標であろう。

３.日本語教育分野協力の今後の展開

ブラジル事務所ベレーン支所
・教員養成、教材供与等の支援が、国際交流基金、普及センター等の重複がある。各機関の投入を有効に活用し、援助受入側の負担の軽減を目的に「セクタープログラム」概念を用い、全体計画に基づく各機関間の投入調整が急務

ボリビア事務所サンタクルス支所
・現行の日本語教育分野における指導者の育成制度をさらに向上させることは重要だが、これを部分的に変化させた一案を提案したい。本邦に滞在する就労日系人について、日本語を話せない児童の就学問題が起きている。一方、一定の年令（中学生）を過ぎると、西語の語学不足から現地学校の編入が難しく、帰国できず定住化を余儀無くされる例も多い。

・現地日本語教師（応用コースレベル）が、本邦の日系人児童が多い学校で、授業補助員やカウンセラーの役割を担い、学習の手助け、心のケア-、帰国後の

編入を考え現地語の補完講座等を行なう。さらに、一般児童に中南米事情を伝えることで、日系社会についての認識が高まり、国際交流のきっかけとなることが期待できる。加えて、教育の現場に携わることから、授業の実践や道徳教育等、坐学では学べないことが経験でき、帰国後現地日本語学校で活かすことが可能である。本邦と日系社会の関係が、「支援」から「協力」に移行することが望まれている折、以上提案する次第である。

４.３事業の比較における各事業の長所と短所（改善を要する点等）

（１）日系研修

１）長　所

ブラジル事務所ベレーン支所

・日本語学校生徒研修は、成果およびＪＩＣＡ広報の面で、費用対効果および実施意義が極めて高い。日系研修予算の配分見直し等で、枠の拡大を望む。

ボリビア事務所サンタクルス支所

・日本社会に直に触れることができ、日本語の背景にある文化、習慣等に造詣を深めることができる。

２）短　所（改善を要する点等）

ブラジル事務所ベレーン支所

・研修に必要なレベルの日本語力も英語での研修も困難。個別研修を廃止し、国別・地域特設と同じ考えで、支援重点分野で集団コースを設定し西／ポ語監理員を配置する。

ボリビア事務所サンタクルス支所

・戦前移住者の子弟が日本語教師を目指す際、現行制度では要求される日本語能力レベルが高く適当なコースがない。

（２）ボランテイア

１）長　所

ブラジル事務所ベレーン支所

・現代日本と現地日系社会の各々の人間同士の接点を作っている点

ボリビア事務所サンタクルス支所

・人の往来が乏しく閉鎖的と言える日系社会において、ボランテイアは常に目新しい存在で、新鮮味のある授業を期待する学習者にとり、この上ない存在であり、また現地の指導者に実践的な日本語教育の習得機会を与えている

２）短　所（改善を要する点等）

ブラジル事務所ベレーン支所

・ＪＩＣＡへの依存体質を促進している。コストシェアリング方式を採用し、応分の負担を負うことで、対等なパートナーシップ関係への基盤を構築することを提案する。伯国については、伯国において青年の研修プログラムを実施している。日本ブラジル交流協会との連携も一案

ボリビア事務所サンタクルス支所

・現地における指導者不足に起因していると思うが、ボランテイアに対する依存心が強い。

（３）汎米日本語研修

１）長　所

ブラジル事務所ベレーン支所

・中南米地域各国間のネットワーク作りの場を提供している。

ボリビア事務所サンタクルス支所

・中南米地域で教育現場に携わる者同士が、それぞれが抱える問題の克服方法について意見交換ができる場であり、教師間のネットワーク構築の役割も果たしている。

２）短　所（改善を要する点等）

ブラジル事務所ベレーン支所

・各国内で行なわれる教師研修会と同様の内容、議題が繰り返され、際立った成果は見受けられない。「第３国研修」と同様に位置付けて、実施体制、内容を見直すことが必要

ボリビア事務所サンタクルス支所

・以前、参加する教師間のレベル差が顕著になり研修に支障を来たしたので、当方からグループ分けを提案したが、現在は改善されたかと思う。

・本邦からの派遣講師に依頼する講義テーマは、現在２カ国の開催国の要望に集中することを危惧する。講義テーマの選択に配慮願いたい。

５.３事業の連携は可能か／３事業の連携を図ったことがあるか

ブラジル事務所ベレーン支所

・当支所では３事業を縦割りで扱うことなく横断的に見て助言を行なっている。

ボリビア事務所サンタクルス支所

・「ボリビア日本語教育研究会」が、全国の日本語教師が参加できる研修会の開催や教材開発（移住授業費による助成事業）、日系研修員や汎米-研修の参加者を調整する等を行なってもらっており、日系社会は事業の種別を意識せずに活動を行なっている。３事業の連携について、現行制度で現地が実施できて、大きな効果が見込める斬新な案は思いつかない。

６．３事業連携の望ましいあり方

ブラジル事務所ベレーン支所

・本調査を基盤として横セ、青年海外協力隊事務局、中南米部、関係部署によ

る「日本語教育研究会」を立ち上げ、関係部署が共同で全体計画の策定および実施を行なう。

ボリビア事務所サンタクルス支所
・「海外移住審議会」の意見書にある、日本語教育に関する支援、協力方法の見直しを図り、類似する事業との整理統合を図るべしとの意見は、今後の日本語教育のあり方を検討する上で不可欠であろう。

・欧州の先進国が自国民の移住先国で行なう教育支援は、単純かつ明快である。ドイツの場合、政府の助成金（運営費の３０％）を受ける。交付の条件は、ドイツ政府による国際校に対する教育理念を遵守することのみで、それは「ドイツ語教育を通じて、ドイツ国、その文化等を理解させ、親独国の人間を育てる。それにより、文化のみならず経済交流が活発化し、ドイツ国に国益として還元される」というものである。

・我が国による日本語教育は、日系人と非日系人を分離して事業を展開してきたが、考察にあるように、外国語としての日本語教育が主流になりつつある現在、両者を包括した指針の策定、事業を展開すべき時が来ている。

・３事業の連携が、日系人支援の枠組みで検討することと並行して、外国人（非日系人）を対象とする他機関との連携、あるいは発展的統合も視野に入れ、さらなる日本語教育の拡充を目指した検討がされることを期待する。

７．その他

（記入なし）

２．日系団体からの回答

１．横浜国際センター（以下、横セ）の考え（別紙「ＪＩＣＡの日本語教育協力を通じた中南米日系社会との連携の在り方に係る一考察」）について

（ブラジル）
北伯日本語普及センター
・本邦の益にもつながることでありＪＩＣＡの積極的な関与を望む。今後、日本語教師は、１世を含まない日系人、非日系人で占められ、教師激減、言語能力低下等の問題が予想される。環境整備（特に資格、収入）を考慮した支援を期待したい。

ベレーン日系協会
・横セの考えに総論的に同感。ブラジルは多文化国家で、上部はユダヤ、アメリカ、ドイツ、スペイン、イタリア、北欧等々、固有文化が割拠し、互いに認め合うと同時に意識的に母国文化、言語の普及強化を図っている。日系社会のアイデンテイテイがしっかり形成されないと、他の先進国文化と競合どころか消長する。宗教が、他文化では中心に存在するが、日本文化全体を代表しない。自然的で、ナイーブで、繊細かつ感覚的で、基盤が比較的ぜい弱な日本文化は、昔は「ことだま」、今は日本語に代表してもらう。

日本語普及センター
・暮らしやすい生活ができる社会づくりを目指すと言う、ＪＩＣＡの国際協力の philosophy は十分理解できる。しかし、ブラジルにおける移住者の活躍および日本語教育が十分ブラジル社会作りに参加できたとは考えられない。全てはこれからだと思う。関係者の方々が真摯に日系社会のことを考えていることに感謝する。

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・ボリビアの日系人は、日系人である前にボリビア人であり、ボリビア社会で生きてゆくことが基本だから、言語はまずスペイン語をしっかり身につける必

要がある。然る後、アメリカとの地理的関係と経済的影響力から、英語は無視できず、英語と日本語が並列的地位を占める。したがって、日系人が、日系社会のみならず地域社会において活躍するのを支援する観点から、日本語教育のみでなく、少し幅を持たせた支援方法が考えられてよい。日本政府が日系人をどこまでどのように支援するのが適当かという、基本的な問題と係わってくる。

サンタクルス中央日本人会
・貴考察を読んで、日系人、非日系人、異質な人々とのコミュニケーションを深め、相互暮らしやすい生活ができる連携を計っていくため、日系社会・団体のチームワークを築き、社会に役立つ人材を育成し、非日系人・異質な人々に日本の文化や社会づくりの魅力を発信し、相互の文化を深く理解し合いながら平和な社会づくりを目指したい。

サンフアン日ボ協会
・サンフアン移住地は、オキナワ移住地と共に有数の移住地として内外に認められているが、いかに認められて来たかを一言で言えば、日系人の特質である「勤勉」があげられる。

・入植当時の「無」から今日の移住地を築き上げたことは、関係諸機関の物心両面にわたる支援と、先人の忍耐と努力の賜物である。移住者１世の高齢化で世代交代が進み、現地生まれの２世の時代だが、日本人の特性である「勤勉」「誠実」は忘れていない。

・サンフアン移住地では、３世代同居が珍しくなく、家庭で日常的に日本語の会話であり、日本語を通じた文化の伝承が行なわれ、知らず知らずの内に特性を身につけている。２世、３世は、現地語教育はもちろんであり、ある程度の日本語教育を受け日常会話に不自由しない。これからは、バイリンガルはもちろん、能力次第ではトリリンガル（三言語）の時代だと思う。

・爾来、日本語教育の必要性（重要性）を認識し、一貫して日本語教育に取組んでいる。一応安定した今の日本語教育になるまで、試行錯誤、紆余曲折を繰返し、生活基盤の確立のために行なった以上の努力を傾注したと自負する。年々

少子化が進み学校の運営も困難を極めているが、教育問題を日ボ協会の最重要課題と位置付け、懸命の努力をするであるので、今後とも日系研修員制度、ボランテイア派遣制度は継続してほしい。

２．ＪＩＣＡの日系社会支援事業全般について

（ブラジル）
ベレーン日系協会
・若手日系世代を日系社会に引止めるには、日本語、日本文化を押し付けてもダメで、彼らが興味を持っている娯楽、スポーツを通じて一般の若い世代を引き付け、彼らはもとよりその子供達に向けて徐々に日本語、日本文化の普及を図って、さらには後継リーダーを養成する。小さな文化プログラムに援助することも必要でしょうが、ＪＩＣＡの資金援助が可能なら、体育館、スポーツセンター建設等、独立採算でも成り立つインフラ面での援助がほしい。

トメアスー文化協会
・日系社会の世代交代と１世の老齢化が進み、当協会運営も変換期に来ている状況で、日本文化とブラジル文化の両面を持つ人材の育成が急がれ、人材育成の一助として技術研修員の受入れ、専門家派遣の継続、充実をお願いする。

日本語普及センター
・１０年後の日系社会を考えると、教育と文化（技術を含む）分野の支援かと思う。これらを通じて、ブラジルにおける日系人の社会的地位の向上に協力してほしい。

・日本語が必要でなくなった時の福祉事業-ブラジルで生まれ生産活動した者は、ブラジルで福祉を受けるべく、当国政府が対応すべき

・農業-後継者の育成および新技術の移転を中心に

・日本語教育の充実-当センターを中心に、従来の研修以上の日系大学設立に対

する支援およびサンパウロの中心地に日本文化センターを作る。

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・ＪＩＣＡ業務の受託-独立法人化に伴い、大幅な合理化に取組むと聞くが、研修業務および専門家・ボランテイア派遣を当協会が受託することは可能。そのためには、当連合会の事務能力を高める必要があるが、適正な業務委託費をいただければ実行可能である。業務受託により当連合会の発展を計ることができ、ひいてはボリビア日系社会の活性化につながると思われる。

オキナワ日ボ協会
・移住地の環境整備-ＪＩＣＡの助成事業によって移住地の道路造成、橋、暗きょ等の施設がとり行なわれたが、施設も２０年以上経過し、すでに道路工事を見直す時期だが、日ボ協会賦課金負担での予算捻出は無理。今後、移住地の２８０㎞ の道路工事の実施には多額の予算が必要で、その予算の見通しはなく、ＪＩＣＡの助成をお願いする。

サンタクルス中央日本人会
・日系社会・団体を活性化させる社会を築き上げる人材作りのために、ＪＩＣＡによる日系研修の支援
・日系社会青年ボランテイアの継続
・日系社会シニアによる指導
・支援・援助
・日本語教育の資金援助（現在、当日本語補習校および普及校において生徒数が少ないため彼らより徴集される月謝のみでは、教師の給与、教材費、校舎の維持管理等の資金繰りが困難

サンフアン日ボ協会
・移住地の発展、ひいてはボリビア国の発展は教育の充実以外にないと確信するので、今後とも教育分野への支援をお願いしたい。

３．日本語教育分野におけるＪＩＣＡの協力

（ブラジル）
北伯日本語普及センター
・教育文化対策事業助成金の継続
・母語がポ語である日本語教師養成システム
・教材開発支援
・青年ボランテイア団体事務継続派遣

ベレーン日系協会
幼稚園に関して、
・日本式情操教育（図工、音楽、折り紙等）を充実させて売り物にしたい。子供に対する日本文化の普及となる。小スポーツセンター用具等設備支援をお願いしたい。コンピューターを増やし情報処理教育を充実させる。日本式音楽教育用のたとえばピアノをはじめとする楽器の購入

日本語学校では、
・２世教師の養成
・教材の作成

トメアスー文化協会
・２、３世日本語教師の育成を念頭にブロック別ボランテイア派遣の継続、充実を希望する。

日本語普及センター
・ブラジルにおいて日本というものが浸透したのは、日系人の存在が大きい。日本の技術、文化に関心を持ち、日本語を学ぼうとする者は、日系、非日系を問わず拡大している。しかし、日本語教育の基盤がしっかりしていない。したがって、ノウハウ移転を目的とした人材の派遣、研修制度の充実に加えて、学習者の拡大を図り、教師の生活基盤を上げるための事業に対する協力を期待する。

・上記の環境整備のための、日本語教育機関、日本語教育支援機間、日本語教師、シニア、青年ボランテイア間の機能的なネットワーク構築に関する協力も期待したい。

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・日系国際校設立-毎年研修員・奨学生を日本に派遣しているが、日本語による取得技術を、帰国後生かせる職場が極めて少なく、埋もれさせてしまうか、あるいは日本にUターンする例が多い。これを抜本的に見直し、研修等にかける費用を集約して、当地に日系国際校を設立し、日系社会のみならず、ボリビア社会への貢献も目指したプロジェクトとしてはいかがかと考える。

オキナワ日ボ協会
・生徒数の減少に伴い、日本語の教育負担が過重となっており、今後日本語教育の維持のために、現在通りの教師謝金と教材費の助成を希望する。

サンタクルス中央日本人会
・日本語を外国語として学ぶ学習者のための適切な教材の指導および支援
・日本語能力を増すため、日本語教育指導者およびボランテイアの派遣
・日系人および非日系人の日本語学習者の本邦研修受入れ
・技術研修生の受入
・その他、日本語教育の向上に必要とされる援助

サンフアン日ボ協会
・シニアボランテイア、青年ボランテイア（日本語教師）の派遣と日本語教師育成のための研修制度の充実
・助成事業の継続

４.３事業の比較における各事業の長所と短所（改善を要する点等）

（１）日系研修

１）長　所

（ブラジル）

北伯日本語普及センター

・１００％日本語環境の経験。日本の習慣、規範が実感できる。

トメアスー文化協会

・斬新な技術の吸収が可能。日本の文化、生活習慣などの知識が得られる。団体研修では多くの人と交流できる。

日本語普及センター

・日本語を習いに日本に行くのは、日本語学習者、日本語教師にとって夢の実現の場となる。

・毎年多くの日系人が日本の技術を取得して、帰国することにより、当国における日系人の評価が高まると共に発展に貢献している。

（ボリビア）

ボリビア日系協会連合会

・日本を理解し、最新の技術が習得できる。

オキナワ日ボ協会

・日本の高い教育水準を修得、体験し、将来社会的にも自信を持って活躍できる人材が養成される。

サンタクルス中央日本人会

・研修生が日本の技術を学び、社会に役立つための人材育成

・日本語能力の増進

・日系人としてのアイデンテイテイーを確立

２）短　所（改善を要する点等）

（ブラジル）

北伯日本語普及センター

・３ヶ月以上は長い。研修参加を数回まで可能にして段階的にレベルアップさせる。

トメアスー文化協会

・特になし

日本語普及センター

・日本の研修先と事前の意思の疎通がうまくできず、不十分な成果に終わる例も稀にあり、これらを解決するための情報交換をさらに活発にする必要がある。

・特に、日本語教育分野においては、集団研修が設定されているが、地元の現状とかけ離れた高度な研修内容も見られる。これらを解決し、より効果的な研修にするためには、日本側と現地側でカリキュラムを公開し、現地での到達目標を各コース単位で設定する必要がある。

（ボリビア）

ボリビア日系協会連合会

・ボリビアの教育レベルは低く、教育の場も少ないので、日本語学校を除き、日本で習得した教育技法を活かす場が大変限られる。

（２）ボランテイア

１）長　所

（ブラジル）

北伯日本語普及センター

・ボランテイア受入れで現地父兄の関心が高まる。特技を生かしたケースでは好評

トメアスー文化協会
・現場での系統立った技術の伝達が可能。教師と生徒の学習意欲が刺激され教育効果が上がる。

日本語普及センター
・日本から定期的に人材の派遣があり、当地における事業の進展に大きく貢献している。

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・最新の教授法をもたらしてくれる。

オキナワ日ボ協会
・現地教師および生徒への日本の教育技術の指導は、教育体制の向上と強化につながる。

サンタクルス中央日本人会
・日系社会造りのため、開発途上国にボランテイアを通しての日本政府の支援、援助

サンフアン日ボ協会
・最新の教育に関する情報が得られる、得難い制度であるので継続してほしい。

２）短　所（改善を要する点等）

（ブラジル）
北伯日本語普及センター
・権利主張が強い傾向。現地に合わせる度量がほしい。

日本語普及センター
・日本と現地の事前の情報交換が十分でなく、受入機関に期待（業務内容、技術レベルなど）と異なり、ボランテイアの能力が十分に活用されない例がある。

また、現地側もボランテイアの持つ技術を十分に吸収するための人材を用意できず、せっかくの技術が十分に移転されないケースも見られる。

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・派遣期間が２年間と短く、教育の特殊性を考えると非効率。シニアボランテイアには校長・教頭経験者を希望する。

サンフアン日ボ協会
・青年ボランテイアの場合、大学を卒業直後でなく、幾分かの実社会経験がある方が現地の活動でも実生活においても適応が早い。

（３）汎米日本語研修

１）長　所

ブラジル
トメアスー文化協会
・同じ環境の多くの同僚との合同研修により、技術向上だけでなく、交流を深めることができ、問題点を話し合える場として有効

日本語普及センター
・主に日系人を教える汎米の日本語教育機関（教師）のネットワーク形成および現地におけるノウハウの蓄積に大きく貢献している。

・汎米諸国の日本語教師が、一同に会し研修を受ける唯一の機会であり、「日本語教育に一緒に取組もう」という連帯意識が生まれ、自信がつき友情が生まれ、生きがいを見つけることができる。

・最新の教育法、バラエテイのある教え方、魅力ある教授法を学べる。

・他国を知るチャンスであり、知識が豊富になる。

・開催国側の立場からは、現地のニ-ズに合わせた研修にするために、衆知を集めて研修の企画に取組み、これらを通して得られるノウハウは得難いものである

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・近距離であり参加しやすい。また、地域の事情にあった研修が受けられる。

オキナワ日ボ協会
・各国の研修生との交流によって、各地域の教育事情および情報を話し合い、自校の教育向上に取り入れていくことができる。

サンタクルス中央日本人会
・外国語として学ぶ日本語の教育に関する汎米各国の教育方針を展示し、日本語教育の効率化を図る。

２）短　所（改善を要する点等）
（ブラジル）
日本語普及センター
・年ごとに会場が変わるためにつぎの問題が生じる
－教授内容の質的向上が継続的にできない、
－日本の講師との内容決定が遅れ、事前に候補者に内容が十分に伝わらない
－運営のノウハウが生かされない、と同時に財政的に削減するのがむずかしい
－地元のボランテイアの先生方とのつながりが切れる
－改善されるべき課題が解決されず、そのまま残る
・さらに、多数を対象に同一の研修を企画するには、以下の困難が生じている。
－参加者の日本語能力にばらつきがあり、基本的な事柄を吸収するための力が不足している者がいる
－参加者の教師経験、文法知識などにばらつきがあり、基礎的な内容を必要とする者と、基本は大体分かっていてその先に進みたい者もいる
－対象としている学習者に差があり、研修の内容を初級に求める者や中、上級に求める者がいる

・そこで、次回からサンパウロで行なうことを提案して、日本語教師を支援する事業としてさらに充実させたいと考える。その理由は以下のとおり
－中南米の中心都市である。また、本研修以外にも子供テスト（児童用日本語能力検定試験）を通じ協力可
－教材、書籍の購入が可能
－サンパウロ市内の中心部に位置し、十分ではないが、研修施設の整備
－日本語教師が多く、熱意を持って開催を支援できる
－現在構築中のサイトを利用したネットワークの有効利用
－経費の削減化可能
－サンパウロ市内の参加者をオブザーバーとすることで、他国参加者の増加可
－十分な準備が早くから行なわれる

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・研修の期間が短い。また、非日系人は参加できない。

５.３事業の連携は可能か／３事業の連携を図ったことがあるか

（ブラジル）
北伯日本語普及センター
・連携を図ったことはない。
日系研修と汎米研修の連携は可能と思うが、ボランテイアを関連させることが可能かどうか疑問

トメアスー文化協会
・意識的に図ったことはないが、ボランテイア派遣を除く２事業は、教育、教授方法の一貫性を考えると、連携は可能

日本語普及センター
・現在、この連携を具体化し、ブラジルにおける日本語教師のレベル向上につ

なげる必要性を痛感している。

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・当連合会の中にボリビア日本語教育研究委員会が存在し、３事業の纏め役を果たしており、特に連携につき考慮する必要はない。

オキナワ日ボ協会
・現在まで連携はやっていないが、今後やるとなるとボリビア日系協会連合会が中心になって進めることが必要

サンタクルス中央日本人会
・連携を取ったことはないが取ることは可能

サンフアン日ボ協会
・３事業を意識して連携させたことはない。３事業の連携と言えるか分からないが、ボランテイア、特にシニアの指導、助言で汎米研修に参加し、日系研修に応募することはある。

６.３事業連携の望ましいあり方

（ブラジル）
北伯日本語普及センター
・現地日本語養成システムの中に、初期には汎米研修、短期日本語研修を取入れ、最終は長期専門日系研修を取入れるとシニアボランテイアの連携が可能

日本語普及センター
・現地における研修、養成事業の到達目標を、日本での研修受入側と十分協議して、一貫した研修・養成プログラムを確立する必要がある。

・現地の研修あるいは養成事業と日本での研修を価値付けし、資質のある日本語教師の社会的地位の向上のため、日本、現地側の公的機関（大学など）の認定を受けられるようにする。

・一貫したレベル認定を伴った教師資質向上プログラムは、ボランテイアによる現地教師資質の向上（現地における研修会の活発化）、現地における教師養成（汎米研修などを利用した日本からの専門家による研修）、日本における研修が三位一体化することで可能になる。

・現地→日本の研修は、一方交通的なものではなく、初心者教師を対象とした養成プログラムとベテランを対象とした現地における指導者養成が必要であり、現地→日本→現地→日本→現地といった形態が必要

サンタクルス中央日本人会
・一案として、年に一度汎米日本語研修会を開き、日系、非日系教師および指導者出席のもとで、各地域の日本語教育方針、事情を一致させながら、日本語指導の統一を図り、一つの教育プログラムを作成し、これらの教育を実施すると効率が上がると思う。

７．その他

ブラジル
トメアスー文化協会
・言語のみならずブラジル現地校にない情操教育や日本文化が理解できる学校として今後も運営に努力する。

日本語普及センター
・日本における教師研修の変更については、現地のニーズ調査を十分に実施してほしい。応用初級コースの条件が教師経験１～２年だと、教師歴は長いが基礎的知識を学ぶ機会のなかった中堅教師に相応しい研修がなくなる。

・現地の日本語教育機関の財政基盤を確立するために不可欠である助成事業も充実してほしい。

（ボリビア）
ボリビア日系協会連合会
・２００３年7月第１２回汎米日系人大会（ＣＯＰＡＮＩ）が開催され、当連合会が主催するが、今回初めてＣＯＰＡＮＩの中に日本語教育に関する分科会を設置し、各国代表と日系社会における日本語教育につき意見を交換する。ＪＩＣＡの協力をいただきたい。

３．日本語学校の回答

１．横浜国際センター（以下、横セ）の考え（別紙「ＪＩＣＡの日本語教育協力を通じた中南米日系社会との連携の在り方に係る一考察」）について

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・全く「考察」のとおりだと思う。非日系も対象とする開かれた外国語としての日本語教育でなければ日本語教育の存在はむずかしい。外国語としての日本語教育は、「考察」のとおり人材育成のため、ひいてはより良い国際社会づくりのためである。人づくりのための日本語教育は、人格形成に係わる時代、すなわち異文化を抵抗なく吸収し、外国語学習に適した年令で、しかも日本の素晴らしい情操教育を取り入れた幼児期、学齢期からの日本語教育が望ましい。当学園は、幼稚園、小学校を設置し、バイリンガル教育を行なうことによって、人材育成のために努力している。

サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校
・現在のブラジルの日本語教育は、幼、少年が主な対象であり、しかも２世、３世、ハーフ、所によっては非日系も含まれており、考察にあるイデオロギーを植え付けるには、まだ年数が必要と思う。

・日本語は、異国で簡単に学べる言語ではない。漢字の場合、音読みと訓読みとニ例あり他の言語にはない存在

・日本的なテキストより現地向きテキストが子供の関心を集める。そのようなテキストが早急に必要

・非日系人にも日本語を教えることができる人が必要

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・ほぼ全面的に賛同した。人間も大人になると、言葉の上手、下手はあっても、結局はその人の中味であって、伝えようとする意志があれば、通ずると思う。

したがって、子供達に日本語を教えるにしても、単なる技術的に上手い、下手ではなく、真にその子のためになるように教えるのが根本だと思う。現在、市長や州議員になった人達が、かつての日本語教師について語る時、また今は亡き先生を慕って熱い思い出を語るのを聞く時、自分もそんな思い出を教え子達に残せるように、教育に打ち込みたいと思う。

（ボリビア）
サンフアン学園
・全文を通読して、もっともだと思うことが多くあった。

・「５Ｓ」は日本語教育だけでなく家庭教育でも必要なことだと思う。

・日系社会における日本語教育と日本文化の伝承は、１０年位前の日本のスタイルで行なわれている。現在の日本における文化伝承の変貌は、外国に住む者からは、目に余るものが感じられる。「５Ｓ」を基本に日本人の教育を見直していただきたい。

2. 貴校について記入してください（転記省略）

（１）学校名
（２）校長（代表者）名
（３）住　所
（４）教師数
（５）生徒数
（６）週授業時間数
（７）使用教科書および副読本
（８）貴校の特色（生徒構成-幼児 生徒 成人、日系人 非日系人の割合、生徒の日本語能力の程度、授業方法および内容等）

３．貴校に関する実績（受入／派遣／参加人数）を書いてください。（転記省略）

	日 系 研 修 員	ボランテイア	汎米日本語研修
平成１２年度 （2000 年 4 月 ~2001 年 3 月）	基礎Ｉ　名 基礎ＩＩ　名 応用　名 日本語専修　名 個別コース　名	シニア　名 青年　名	名
平成１３年度 （2001 年 4 月 ~2002 年 3 月）	基礎Ｉ　名 基礎ＩＩ　名 応用　名 日本語専修　名 個別コース　名	シニア　名 青年　名	名
平成１４年度 （2002 年 4 月 ~2003 年 3 月）	基礎Ｉ　名 基礎ＩＩ　名 応用　名 日本語専修　名 個別コース　名	シニア　名 青年　名	名

４．人選／要請について

（１）人選の基準

１）日系研修員

（ブラジル）

ベレーン日本語学校

・基礎コースは、日本語能力向上と日本語指導法を学ぶに相応しい人を選ぶ。応用は、８年～１０年位の日本語教師経験者で、自身のレベルアップと後輩の指導に当たることができる教師。

トメアスー日本語学校

・特に基準はない。当校の教師は、学生、農業者、農家の主婦の兼業であり、時間的に余裕がない。その状態の中で、条件の揃った者が研修に参加している。

西部アマゾン日伯協会日本語学校
・将来において当日系社会に貢献できる人材の養成

サンパウロ州アラサツーバモデル校
・本人の希望と本校教師勤務年数順

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・本校の教員でさらなる教育技術や思想の向上を望む者

（ボリビア）
ヌエバ・エスペランサ小中学校
・日本語に対する能力（会話、読解、作文）がある程度、満たされていること
・本人のやる気、将来性

サンタクルス日本語学校
・ボリビア日本教育研究委員会（役員会）で各校（５校）にて順番制となっている。

サンフアン学園
・当学園で日本語教育に携わっていて、その研修期間参加できる者

２）汎米日本語研修

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・ある程度経験を持つ教師で、１ヶ月以上の研修を受けることができない教師

トメアスー日本語学校
・特に基準はないが、本邦研修に参加していない者、２世教師を優先
西部アマゾン日伯協会日本語学校

・現地日本語教師の経験があり今後とも継続的に日本語教育に携わる人材

（ボリビア）
ヌエバ・エスペランサ小中学校
・本人の積極性と研修後学んだことを活かし得る力があるかどうか

サンタクルス日本語学校
・本人の希望により、新人教師を優先している。

サンフアン学園
・当学園で日本語教育に携わっていて、その研修期間参加できる者

（２）ボランテイアに期待すること

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・専門的知識と経験があって、地元の事情を理解した上で現地機関や教師と協調でき、現地教師と一緒になって教師のレベルアップに貢献してくれること。

トメアスー日本語学校
・青年ボランテイア-本校の生徒は、ハッキリとした学習目的をまだ持たない年少者が多い。日本文化の重要さを認識し礼儀正しく生徒達の模範となる、活気あふれた青年で、生徒たちと楽しい授業ができる人

・シニアボランテイア-州都ベレーン市から遠隔の郡部にあり、州都で開催される各種の教師研修に参加できないので、現地において教師養成をする能力のある人を望む

西部アマゾン日伯協会日本語学校
・　特に青年ボランテイアには教師不足の現地にとって欠かせない存在
サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校

・授業を通して子供達と親しんでもらい、ある程度のポルトガル語が理解できたら、子供達との融和が生まれると思う。

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・本モゾ地区の教育の質的、量的向上に貢献してもらいたい。また、日本の本物の日本語を教えてもらいたい。

（ボリビア）
オキナワ第一日ボ学校
・教師経験があり、それを活かしてほしい。
・授業の進め方など、教師の技術的な指導

ヌエバ・エスペランサ小中学校
・現地での順応性、たくましさ
・新しい情報をもたらしてくれる。

サンタクルス日本語学校
・（青年ボランテイア）現地の生活に慣れ、現地教師と一体となり、何事も率先して活動することを期待する。

サンフアン学園
・日本語学習生徒の日本語能力の向上と、地元出身教師の資質向上を図り、さらに日本からの新しい風を期待（学園全体に）

５.３事業の比較における各事業の長所と短所（改善を要する点等）

（１）日系研修
　１）長　所
（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・基礎コースから応用へとレベルアップできる研修方法が大変有益

トメアスー日本語学校
・語学学習においては、その国の文化を知ることが重要。その意味で、日本で

の実生活を通しての学習体験は、効果大である。

サンパウロ州アラサツーバモデル校
・日本を直接見聞できる。講師をはじめ多くの人との出会いがある。豊富な授業研究ができる。日本語能力が鍛えられる。

サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校
・日本の文化を身近に受け入れてくる。日本語の基礎を学んでくる。

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・教師を続けると、とかくマンネリズムに陥り、安易に流れてしまうので、研修により新しい決意と新しい技術を学び、意欲を持って教育にあたってほしい。

（ボリビア）
オキナワ第一日ボ学校
・日本の文化を学ぶために、実際に肌で分かることができ、日本の教育事情などもよく分かる。

ヌエバ・エスペランサ小中学校
・母国日本の発展を体験、実感し、後に自信につながり、ひいては積極的に前向きに取組む姿勢が培われる。

サンタクルス日本語学校
・最新の教授法を学べるところがよい。

サンフアン学園
・色々な国の日本語教師が集まるので、他国の日本語教育の現状を知ることができ、教育技術、専門知識を身につける得難い機会

２）短　所（改善を要する点等）
（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・基礎から応用へと進めるコースがあり、立派な講師陣が指導して下さるのだから、本邦研修で日本語教師の資格が取れるようにしてほしい。

・幼少期の生徒増加を図るために、教師の指導法の改善が必要。授業参観、実習を含めた本邦幼児教育研修の設置を希望

トメアスー日本語学校
・研修効果を上げるため、学習者が成人か子供かによりコースを分けてほしい。

・基礎Ⅰ、II は期間が少し長過ぎる。今の期間では、大学生は１年進級が遅れ、学生で２世、３世は、長い期間の研修は無理が多い。

サンパウロ州アラサツーバモデル校
・改善を希望するわけではないが、６ヶ月では短すぎた。

サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校
・研修内容については、授業参観（玉川学園）がいつも決まっているので少し変わった所、レベルの高い学校（例　神戸の灘高）を望む。

（ボリビア）
サンフアン学園
・参加者のレベルに合わせた研修を希望

（２）ボランティア
１）長　所
（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・経験豊かな日本語教師専門家や青年ボランティアなら、現地教師の指導技術の

向上が図れる。また教材開発にも協力してもらえる。

トメアスー日本語学校
・斬新な感覚と知識に接し、マンネリ化しがちな日本語教育へ新しい息吹を与え、最新の指導技術を学ぶことができ、教師、生徒ともに学習意欲を高めることができる。

西部アマゾン日伯協会日本語学校
・ボランテイアを通じて日本の実状を、日本や日本文化に興味のある生徒に伝えることが可能になる。

・現地の日本語教師不足を補うことができる。日本語教育に専念できる存在（現地では日本語教師は職業あるいは学業に就いており、日本語教育に専念できない現状）

サンパウロ州アラサツーバモデル校
・期間が２年間となってよい。日本の新しい教育法が導入される。

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・当地の教師に刺激を与え、新しい教授法を実地にやってみせ、日本から来てもらうだけでも大きな心強さを覚える。

（ボリビア）
オキナワ第一日ボ学校
・ボランテイアを通して日本の最新技術を知ることができる。

ヌエバ・エスペランサ小中学校
・新たな情報の提供や地域に溶け込むことで、地域全体の活性化につながる。

サンタクルス日本語学校
・日本の最新技術、情報を得られるのがよい。

サンフアン学園
・日本の新しい風を与えてくれ、子供達も楽しい学校生活を送っている。

２）短　所（改善を要する点等）
（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・現地事情の把握不足による活動もありうる。

トメアスー日本語学校
・本校では起きていないが、各地でもめ事があると聞く。受入側にも問題がある。問題を未然に防ぐため着任前に双方の意見の十分な調整と理解を深めることの必要性を感じる。

西部アマゾン日伯協会日本語学校
・任期２年は短い。

サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校
・言語を勉強して来てもらえば、現地の日系人との親しみが増す。

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・奥さん同伴の場合、奥さんにも面接し派遣に適しているか否か調査してもらいたい。

（ボリビア）
オキナワ第一日ボ学校
・受入側の要請内容とボランテイアの専門性がずれていることがあり、現地に着任して初めて分かるということがあった。

サンタクルス日本語学校
・現地教師と同様に勤務してほしい。

サンフアン学園
・青年ボランテイアの場合は大学卒業してすぐではなく多少の教育経験、人生経験を積んだ人が知識や技能が豊富で良い。

（３）汎米日本語研修

１）長　所

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・短期の研修しか受けられない教師には有益。若い教師も参加しやすい。

トメアスー日本語学校
・長期研修にいけない人が参加できる。多くの同僚との交流で、各地で抱える問題等の意見交換が可能で、教師としての再認識と技術を高めることができて効果的である。

（ボリビア）
オキナワ第一日ボ学校
・南米各国の日本語教師との親睦が図れ、教育事情などについて意見交換ができる。

ヌエバ・エスペランサ小中学校
・各地からの同僚との交わりによって、それぞれのお国事情の情報交換ができる。

・教材の差異による中南米での日本語教育のあり方が見えてくる。

サンタクルス日本語学校
・距離的に近い、日本語教育に即した教授法が学べる。

サンフアン学園
・研修期間は問題ない。

２）短　所（改善を要する点等）

（ブラジル）

ベレーン日本語学校

・指導技術向上以外に、中南米全体の日本語教育の課題を討議することを望む。

（ボリビア）

ヌエバ・エスペランサ小中学校

・期間が短い。

サンタクルス日本語学校

・期間が短い（１ヶ月ぐらいが良い）

・現地の休暇に合わせてほしい（１月頃）

サンフアン学園

・研修場所と宿泊場所が離れている場合は２倍疲れるので、できるだけ同一場所にしてほしい。

６．３事業の連携は可能か／３事業の連携を図ったことがあるか

（ブラジル）

ベレーン日本語学校

・３事業の連携は可能だと思う。

西部アマゾン日伯協会日本語学校

・連携を図ったことはある。近年参加してないが日系研修や汎米研修に参加した実績があり、研修経験者が教師を務めており、元青年ボランテイアが日本語教師として活動している。

（ボリビア）

オキナワ第一日ボ学校

・なるべくなら、新学期（ボリビアでは２月）が始まる前、１月頃になると授

業に穴をあけずに参加しやすい。

ヌエバ・エスペランサ小中学校
・連携は可能だが、学校側の働きかけがなければ無理

サンタクルス日本語学校
・連携を取ったことはないが、可能だと思う。

サンフアン学園
・シニアボランテイアは、日系研修員の選考に係わっており、汎米研修が開催される場合全面的に協力を得ている（ボリビアで今後開催されないそうだが)。

・短期間の汎米研修で取得した知識が、日系研修に参加する活力になっており、連携は可能と考える。

７．３事業連携の望ましいあり方

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・ネットワークによる連携によって、現地での教師育成講座や共同教材作成などができる。

サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校
・３事業の分野は違っても日本語教育に関する点は共通している。つぎの２つのテーマを研究してもらいたい。
－学校の雰囲気を作る研究-日本語を学びたい、学校へ行きたいと子供達が
　自然に通学するような雰囲気
－環境を作る研究-授業を通じて友達との触れ合いで独特な感じを与える

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・モジ地区ではＪＩＣＡの研修を終えた者たちが集まって、自分達が受けた経験、研究等の発表の場を持っている。それによって各自の見聞の巾が増し、経験が増えてよい結果をもたらす。こうした集まりを各地方地方で行なっていけば、よい成果が上がるのではないか。

（ボリビア）
ヌエバ・エスペランサ小中学校
・地域、学校が体験者の追跡調査を行ない、移住地外の外国事情を地元の人々にアピールする機会を与えること

・ＪＩＣＡの移住教育部門の一環としての働きがもっと見えるようにすること

サンタクルス日本語学校
・公開授業を行なって教師の向上を目指す

サンフアン学園
・今後ボリビアで汎米研修が開催されないと聞くが、もしボリビアで開催されるなら、汎米研修に招かれる講師とボランテイアの結びつきを強くして、地元の研修会に参加してもらえるような連携を取ってもらいたい。

・汎米研修に参加した教師を優先的に日系研修に参加させたい。

８．３事業による協力に今後期待すること

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・幼少期の生徒増加を図るために、教師の指導法の改善が必要。授業参観、実習を含めた本邦幼児教育研修の設置を希望

・幼稚園教師経験者の青年ボランテイアか幼児教育専門家の派遣を希望

・教師養成講座が持てるように日本語教育専門家の派遣を希望

トメアスー日本語学校
・日系研修-研修効果を上げるため、学習者が成人か子供かによってコースを分けてほしい。

・ボランテイア-現行のブロック別のシニア派遣は、当校のようなへき地校では大いに効果があるので、継続派遣してほしい。

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・教材援助枠の拡大-必要な教材がたくさんあるが、各自で全部揃えるのは莫大な費用がかかる。教材援助の枠を拡大してほしい。

（ボリビア）
ヌエバ・エスペランサ小中学校
・多くの人に経験してもらうためにも、長くつづけてほしい。

・非日系にも門戸を広げてほしい。

・教育専門家を多く送ってほしい。

サンタクルス日本語学校
・新人教師の育成のため、研修参加とボランテイア派遣の継続を期待する。

サンフアン学園
・ボランテイアの指導で、日系研修員として研修に参加する際に困らないだけの知識を地元教師が身につけること

・汎米研修に参加できる人数を増やしてほしい。また、ボリビアでも将来汎米研修を開催してほしい。

９.日本語教育分野で３事業以外に望むこと

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・生徒研修は、研修期間を短縮しても良いから、枠を広げてほしい。

・バイリンガル教育を充実できるように、施設や情操教育のための教材備品などの支援をお願いしたい。

トメアスー日本語学校
・日本語学習者が減少し学校運営に苦慮している。日本語普及機関の運営は、内外の援助に依存しており、今後も頼らざるを得ない状況。経済大国として世界で活躍する日本にとってもスムーズな意思の伝達のための日本語の普及は最重要課題と考える。本校としても文化の伝承と日本の真の理解者を養成するために努力したいので援助をお願いしたい。

西部アマゾン日伯協会日本語学校
・日本であるいはサンパウロ等で開発される新教材の提供等

サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校
・新教材の紹介

・日本語学校を対象にした文化使節団の派遣、情操教育として、例えば歌劇団、漫画家等
サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校

・私達としては、ＪＩＣＡと交流基金がそれぞれに日本語教育分野で活動していることは、一寸理解できない。よく協力しているようだが、ＪＩＣＡに比べて交流基金は資金が多そうな活動をしているので、一緒にやればもっと成果が上がると思う。

（ボリビア）
オキナワ第一日ボ学校
・教師や生徒の日本語学力の低下が進む近い将来に備え、母国の言葉や文化が途絶えないよう、現地教師の指導など、教師育成に協力をお願いする。

ヌエバ・エスペランサ小中学校
・教材（教科書、機材等）を日本から送る場合の手続き上の便宜(教材に関する物品などの郵送料の軽減など)を計ってほしい。

サンタクルス日本語学校
・経済的な面からコンピューター、コピー機等機材の購入の援助をお願いする。

サンフアン学園
・地元の研修会に本邦から講師を派遣してほしい。

・日本語教材購入費としてのＪＩＣＡの助成金で購入する教材について、現地で購入できる教材には限りがあるので、制限しないでほしい。

10．その他

（ブラジル）
ベレーン日本語学校
・外国語としての日本語教育の意義をご理解いただき支援をお願いする。日本語教師有資格者や後継者の指導ができる人が育成されるまで支援をお願いする。

トメアスー日本語学校
・ベレーンとサンパウロは約３千キロ離れている。北伯普及センターを助成金受入団体として活用できるように考慮してほしい。

・１世教師を含めしっかりした日本語教師の実力がつくよう指導ができる実力や経験を兼ね備え、２年間現地に溶け込み、地域の学校の実態にあった指導が

できる、シニア日本語教師派遣が必要
サンパウロ州コロニアピニアール日本語モデル校

・シニアが派遣された所には、青年ボランテイアが配置されなくなった。シニアはその地域一帯の学校を対象に教育する。ボランテイアは派遣された学校で授業を行なう。シニアを受入れた学校では不利な状況が生じる。ボランテイアの若い先生も必要なので、ＪＩＣＡの再考をお願いする。

サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス日本語モデル校
・私達日系人にとって日本政府の援助を見近に感じるのはＪＩＣＡを通してであり、末永く援助をお願いしたい。

（ボリビア）
サンタクルス日本語学校
・シニアボランテイアは、サンフアン学園と兼務で当校に来るのは月１回程度である。しかも、移住地の行事が優先されて、当校の相談事、助言が遅れることが多々ある。それらの解決、また、教師の資質向上のために随時指導が受けられるようサンタクルス校常駐のシニアボランテイアをお願いしたい。

サンフアン学園
・今後とも日本語教育にＪＩＣＡの支援を心から願っている。